

桜まつりで与次郎稲荷ものがたり

千秋公園活性化協議会では、千秋公園桜まつり期間中に、公園内に唯一残る藩政時代の役所建物「御物頭御番所（おものがしらごばんしょ）」（市指定文化財）を会場に、市立中央図書館明德館ボランティアの会おはなしの会の皆さんからご協力を得て、紙芝居を上演します。

上演する紙芝居は、千秋公園内にある与次郎稲荷神社にまつわる伝説「与次郎稲荷ものがたり」と千秋公園の四季を描いた「はる・なつ・あき・ふゆ」の2本です。

千秋公園の桜も、今が盛りと咲き誇る中、伝説のものがたりを見に・聴きに御物頭御番所までお越しください。



御物頭御番所は、長坂（二の丸売店横の階段）を上った表門の手前にあります。

江戸時代の役所建物としては、わが国唯一の遺構です。



御物頭御番所の内部です。この機会にお上がりください。

上演日

4月18日（金）

4月27日（日）

4月29日（火）

上演時間

午前10時30分

午前11時15分

午後1時30分

午後2時15分

18日は午後のみ

<与次郎稲荷>

久保田城建設のため住処を追われた与次郎という狐が、北の丸のお茶園に居住地を与えられ、そのお礼として藩の飛脚となった。

俊足をとばして久保田と江戸の間を6昼夜で往復したが、羽州街道の山形六田村（現東根市）で謀殺された。

義宣はこれを憐れみ、北の丸に一社を創建したと伝えられる。

山形県東根市にも与次郎稲荷神社があるが、秋田に伝わる話と少し違うようである。

なお、与次郎が隠密であった、という話もある。